

船舶事故調査報告書

平成29年4月20日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成28年10月8日 11時10分ごろ
発生場所	山口県光市牛島 ^{うしじま} 北西方沖 牛島港牛島1号防波堤灯台から真方位314° 1.5海里付近 (概位 北緯33° 52.6′ 東経131° 59.2′)
事故の概要	プレジャーボート室積丸は、西進中、また、プレジャーボートよし丸は、漂流中、両船が衝突した。
事故調査の経過	平成28年11月29日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート 室積丸、5トン未満（長さ8.39m） 291-28584山口、個人所有 B プレジャーボート よし丸、1.2トン（長さ7.36m） 291-24247山口、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、一級小型・特殊・特定 B 船長B、二級小型
負傷者	A なし B 軽傷 1人（同乗者）
損傷	A 右舷船首部に擦過傷 B 左舷船首部に亀裂等
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東南東、風力 2、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮汐 高潮時
事故の経過	A船は、船長Aが1人で乗り組み、釣り場を移動する目的で、西進していた。 船長Aは、左舷方にある釣り場の状況が気になり、同方向を見ていたところ、衝撃を感じた。 B船は、船長Bが1人で乗り組み、友人2人を乗せ、船首を南方に向けて漂流していた。 B船は、船長Bが、釣りを行っているポイントから流されないようにGPSプロッターで船位を確認しながら漂流していたところ、左舷方至近に接近したA船に気付き、機関を後進にかけたものの、A船と衝突した。
分析	A船は、船長Aが、釣り場を移動する際、左舷方の釣り場の状況に注意を向け、見張りを適切に行っていなかったことから、前路で漂流中のB船に気付かず、B船と衝突したものと考えられる。 B船は、船長Bが、GPSプロッターを見ていて、見張りを適切に行っていなかったことから、左舷方から接近するA船に気付くのが遅

	れ、A 船と衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、A 船が西進中、B 船が漂泊中、船長 A 及び船長 B が共に見張りを適切に行っていなかったため、両船が衝突したものと考えられる。
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常時適切な見張りを行うこと。